

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
スポーツ理学療法学		選択	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
粕山 達也 他	D311	kasuyama	月曜 10:30-12:00		
授業の目的・概要	スポーツ活動中によく認める障害・外傷の発生機序、理学診断・評価を理解（実践）する。また、傷害予防のためのトレーニングを指導する方法を習得する。スポーツ障害・外傷の発生機序、理学診断・評価、応急処置、理学療法、アスレティックリハビリテーションの一連の流れを説明する。また、スポーツ傷害患者の機能回復をより安全に図るための理学療法や傷害予防法を学生自ら調べ、発表する。各回の内容について、動画を含めて理解し、その後の課題を通じたフィードバックと Teams を利用した意見交換を行い、スポーツ傷害に関する理解を深める。				
学習上の助言	運動学の復習をしておくことが望ましい。				
教科書	スポーツ理学療法学 改定第2版 監修：陶山哲夫 編集：赤坂清和 /メジカルビュー社				
参考書	臨床スポーツ医学/著：Peter Brukner and Karim Khan/総監修：粕山日出樹/医学映像教育センター				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	自ら調べた競技の競技特性と発生頻度の高い傷害を説明できる。			PT (1), (2)	
②	傷害予防方法を考案できる。			PT (1), (2), (4), (6)	
③	自ら調べた傷害予防方法を他の学生に指導できる。			PT (1), (2), (4), (6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1	「スポーツ傷害総論①」スポーツ活動における障害・外傷の理解、種目特性とリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業	講義内容についてまとめる。		4
2	「スポーツ傷害総論②」スポーツ活動におけるコンディショニング、応急処置について学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業	自分の担当競技に関して、調べ発表に向けて準備をする。また、自分以外の発表のまとめを行う。		4
3	スポーツ活動における上肢の傷害について学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業			4
4	スポーツ活動における下肢の傷害について学習する。[担当：遠藤 悠介]	同時双方向型授業			4
5	スポーツ活動における体幹部の傷害について学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業			4
6	競技別理学療法（陸上競技、野球）について発表、学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業			4
7	競技別理学療法（サッカー、バスケットボール）について発表、学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業			4
8	競技別理学療法（バレー、ラグビー）について発表、学習する。[担当：粕山 達也]	同時双方向型授業			4
9	スポーツ現場での応急処置方法について学習する。[担当：粕山 達也]	演習、実技			応急処置に関する自己学習を行う。
10	スポーツ現場でのテーピングについて学習する。[担当：粕山 達也]	演習、実技	テーピングに関する自己学習を行う。	4	
11	スポーツ現場でのアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山 達也]	演習、実技	セルフトレーニングに関する自己学習を行う。	4	
12	スポーツ活動における上肢の傷害のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山 達也]	演習、実技	上肢のスポーツ傷害に関する自己学習を行う。	4	
13	スポーツ活動における下肢の傷害のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山 達也]	演習、実技	下肢のスポーツ傷害に関する自己学習を行う。	4	
14	スポーツ活動における体幹部の傷害のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山 達也]	演習、実技	体幹のスポーツ傷害に関する自己学習を行う。	4	
15	まとめを行い、本講義の理解度を確認する。	同時双方向型授業	講義全体のまとめをする。		4
試	レポート・発表課題				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	20	80	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	0	10	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	20	0	0	20
	取組みの姿勢・意欲	0	10	10	0	0	20
	問題を発見・解決する力	0	0	10	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	各回の発表をまとめたレポートを提出して評価する。疾患に関する病態、評価、治療の流れを簡潔にまとめる。			講義の開始時に毎回フィードバックを行う。	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	初回の講義で決めた自分の担当競技の競技特性、傷害発生頻度等を調べ、他の学生に発表する。また、傷害予防方法を他の学生に教授する。発表内容や教授方法を、評価する。予防方法が実際に行える様に、指導が出来るポイントは高くなる。			発表、教授終了後、発表内容や教授時のポイントのフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎粕山 達也、遠藤 悠介</p> <p><b>教員の実務経験</b>：理学療法士（整形外科診療所 臨床経験 6 年） 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（臨床経験 14 年、資格取得後 4 年）</p> <p><b>実践的授業の内容</b>：実践的な授業内容：臨床現場に多い外傷・障害に関する講義に加えて、症例を提示した実践的な学習課題を提供する。また、学生自身のスポーツ経験を踏まえて競技特異的な障害について学習・発表を行い、理論と実践の統合的な指導を行う。</p> <p><b>授業時のフィードバック、意見交換</b>：同時双方向型授業におけるフィードバック、意見交換の機会は授業時間内に実施する。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨します。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがありますので、通信量に十分に注意してください。</p> <p>大学が公表している感染対策及び教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めません。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によってシラバスが変更される場合があります。</p>							